



愛知県新自動車会館の完成式典を開催

自動車関係団体の総合拠点としての役割を担う

愛知県自動車会議所

完成式典で挨拶に立つ愛知県自動車会議所の山口真史会長。
写真内は来賓として挨拶する当会議所の内山田竹志会長



知県自動車会議所は9月1日、名古屋市西区のウェスティンナゴヤキャッスルで今年2月に竣工した新自動車会館の完成式典を開催した。式典には入館17団体をはじめ、来賓や関係団体関係者など約120人が出席した。

式典ではまず、山口真史会長（愛知トヨタ自動車社長）が挨拶に立ち、「会議所と会館のこれまでの歩みは、関係当局のご指導と、関係各位のご協力の賜物であり、歴代会長はじめ先輩役員各位のご尽力と職員の皆さまのご苦勞によるものと心より厚く御礼申し上げます」と感謝の言葉を述べた後、次のように話した。

「自動車業界のグローバルな変化は速く、先を見通すのが難しい時代となっていますが、日本の自動車産業の発展、そしてユーザーにとっての安心・安全・快適なクルマ社会の実現に向けて、自動車産業の集積地であるこの中部地区が、ますます元気に活躍することが期待されています。会議所としまして、関係団体と協力・連携しつつ、これからも尽力してまいります」

続いて中部運輸局の石澤龍彦局長はじめ来賓5人が挨拶。当会議所の内山田竹志会長も来賓として出席し、「愛知県自動車会議所は、初代の山口昇会長の卓越したリーダーシップの下、1954年に設立され、日本経済を支える国内随一の自動車産業集積地、愛

知県の目覚ましい発展に大きく貢献してこられました。クルマ社会の健全で調和のある発展を目指すという理念は、現在の第5代山口真史会長まで代々受け継がれております。近年、自動車関係業界はグローバルな通商問題や人材不足、自動車税制改革への対応など、内外で様々な難しい局面に直面しており、また最新テクノロジーの開発競争は熾烈を極め、業界の枠組みもクルマ社会そのものも大きく変わろうとしております。このような環境変化に的確に対応するには、愛知県自動車会議所と新自動車会館を中心とした業界一体での取り組みが一層重要度を増してまいります。皆さまの一段のご発展とご活躍を祈念申し上げます」と祝辞を述べた。来賓挨拶の後、会館建設に貢献した関係者への感謝状贈呈などが行われ、祝賀会へ移行した。

地下1階地上5階建ての新自動車会館は、愛知県の自動車関係団体の総合拠点としての役割を担い、同会議所はじめ17団体が入居している。旧会館は、愛知県の自動車業界の中核的拠点として1962年に建設されたが、老朽化が進み、また耐震化への対応も迫られていた。同会議所は2014年に創立60周年を迎え、記念事業の一環として会館建設事業に着手。今年2月に新会館が竣工し、7月に立体駐車場なども含めた全施設が完成に至った。